

きらり



☆第1回人権・同和教育ホームルーム活動



1年 より良い人間関係を作ろう

PTA人権教育部の活動計画

竹林整備	年3回
西条市人権・同和教育講座(～12月)	5月
市内五高校人権・同和教育連絡協議会	6月
いじめ問題対策委員会	7月
体育大会販売	9月
きらり54号の発行	9月
小松高祭販売	10月
ウォークラリー大会補助	11月
人権・同和教育ホームルーム活動公開授業	11月
きらり55号の発行	2月



2年 差別はどのようにして作られたのか



3年 確かな進路保障のために

○『笑顔あふれるまちづくり～人権問題の解決をめざして～』 《西条市人権・同和教育講座① 5月25日》

～元今治市教育委員会社会教育指導員・原 廣さん～

世の中には様々な差別が存在する。ハンセン病元患者、エイズ患者、障がい者、被災者、etc。特に同和問題は長い年月がたっても消えていない。学びは大切だが、時に間違った知識や先入観が偏見となり、差別を生み起こす。講演の最後に先生がおっしゃ



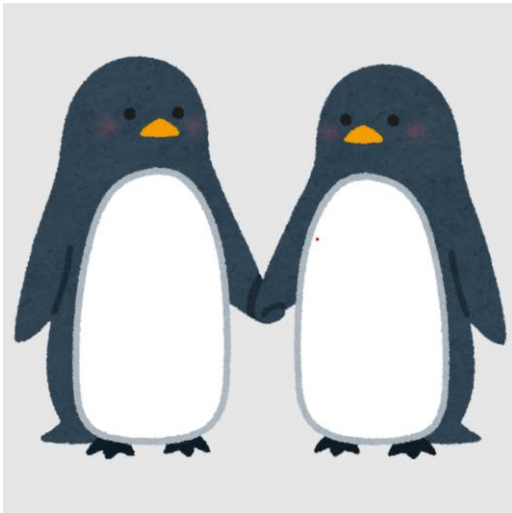
たのは「差別を残す人間」になるか、「差別をなくす人間」になるか。誰もが温かく包む社会であってほしい。誰もが安心して暮らせる世界になってほしい。そう、まずは自分から。



○『LGBTQ+ (プラス)とは?』

《西条市人権・同和教育講座② 7月24日》

～松山市議会議員・渡邊 啓之さん～



講師の渡邊啓之さんが最も伝えたかったことは、どんな人も「普通」に生活したり、働いたり、好きなパートナーと暮らしたりできる世の中にしたいということでした。

誰にでもある「普通」という感覚は、当人にとっての「普通」であり、人とは異なります。だからこそ、無知・無関心を改め、正しく理解すること、そして、自分の「普通」では量れない出来事に誠実に向き合える自分でありたいと思います。

☆人権・同和教育講演会



リモートによる人権・同和教育講演会の視聴

講演会の感想

○人権・同和教育で差別について学ぶことは、正しい知識を身に付けるためだけでなく、「差別を見抜く力」を養い、気付かないうちに差別をしないようにするためだと思います。

○人権委員会の発表を聞いて、小松高校はこれまで人権問題について様々な取組を行ってきたと思いました。それだけ大事な問題なのだと思うので、積極的に活動したいです。

☆人権紙芝居（清風会道前育成園）



真剣な表情で聴き入っていました。

人権紙芝居の感想

○私には身体に障がいを持っている兄がいて、特別支援学校に通っています。普段の生活に何の支障もありません。紙芝居を見て、兄の学校にも知的障がいの人がたくさんいることを思い出しました。私は兄のこともあり、小松高校のライフデザイン科で福祉について学ぶことを決めました。自分の夢を再確認することができました。

☆いじめ問題対策委員会



手紙相談の取組について確認しました。

☆現地研修会（氷見交友会館）



「対等」と「平等」について学びました。

